

項目3 信頼される学校

重点目標	「通ってよかった、通わせてよかった、勤めてよかった」と思える学校をつくる。
目 標	①教職員が協働して、教育の質の向上を目指す。全教員が議論し、合意形成を図る。 ②「魅力ある学校づくり」「業務改善」を推し進める。 ③家庭、地域、関係機関との連携を深め、情報の収集と発信をする。

1 取り組みの状況

I 教職員の協働による、教育の質の向上

- ・企画会（毎日）、主任会（毎週）を行い、現状の課題についての話し合いと役割を確認し、学校組織を強化している。
- ・校務分掌部会（全職員を2部会に割当）を行い、スクールプランの達成に向けて進捗状況の把握と活動計画の改善を図った。
- ・計画的に特別支援委員会を開いたり、即座にケース会を開いたりして生徒の共通理解や対応策を検討し協働して実践した。ケース会には、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの外部の専門家、指導主事、はばたき教室の相談員にも適宜入ってもらった。

II 魅力ある学校づくり、業務改善の推進

- ・「魅力ある学校づくり」では、各学年で生徒アンケート結果をもとに、不登校未然防止の取組をPDCAサイクルで年3回考え実行した。また、生徒にアンケート結果を示して自分の姿を振り返らせ、「主体的に学ぶ姿」について考える機会を持った。
- ・昨年度は清掃を週2回（月・木）行わず読書の時間とし、朝の会を短縮して下校時間を早めた。また、今年度は、昼休み、帰りの会の時間を短縮し、下校時間をさらに10分程度早めた。
- ・部活動は、平日2日（月・木）行わず余裕を持って教育活動ができるようにしている。部活動は二人体制とし、大会前以外は指導を一人で言い、もう一人は他の業務に専念している。

III 家庭、地域、関係機関との連携、情報の収集と発信

- ・学校だより、学年だよりは紙媒体配布を廃止し、電子媒体（ホーム&スクール）で発行した。また、学年だよりは、週ごとに活動内容を写真中心にお知らせした。
- ・生徒の活動やアンケート結果をタブレットを活用して家庭へ配信した。
- ・学校評価アンケートやいじめアンケートを定期的実施して情報を共有し、要望等については、迅速に対応した。

IV 学校業務改善（重点目標「時間外勤務時間月45時間以内」）

- ・4月から11月までの時間外勤務時間の月平均は45時間で、目標を達成した。教員16人中8人が月45時間以内だった。これは昨年度の実績とほぼ同じである

2 目標の達成状況

アンケート結果	①… A 69 B 31 (100) C 0 D 0 (%)	評価	A
	②… A 38 B 54 (92) C 8 D 0 (%)	評価	A
	③… A 46 B 46 (92) C 8 D 0 (%)	評価	A
総合評価	A		
総 括			
組織体制を整えて協働して教育活動に当たったり、喫緊の課題を話し合い対応したりできたことは、教職員のやりがいにつながった。 業務改善を進めたり、下校時間を早めたりしたことは、時間外勤務時間が月平均45時間以内だったことにつながったと考えられる。			
改善策			
学年末の全方位型の学校評価で「魅力ある学校づくり」や「業務改善」の意見を出し合い、校務分掌部会などで効果的・効率的な取り組みを検討し、来年度に向けて更なる「魅力ある学校づくり」に努めていく。 R8年度から休日の部活動地域移行が始まれば、さらに時間外勤務時間月45時間以内は改善されると思われる。			